

平成27年度
だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



被災地交流 避難所開設訓練

2015



ダイジェスト

平成27年11月
大仙市教育委員会 教育指導課

《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会 教育指導課

本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援
＜全小・中学校＞
・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流
＜市内5中学校・6小学校＞
・部活動交流、グランドゴルフ、
だまこ汁の提供、清掃奉仕活動
プランター花のプレゼント、絵
画修復
- ③中学生サミットによる支援
・ヘルメットや図書の寄贈、被災
地訪問による交流と学習会
・交流活動の報告会

～ II・国や市の事業 ～

- ①H23福島っ子との交流事業
＜市内5小学校、3地域＞
・冬祭りへの参加や音楽交流、
郷土料理体験
- ②H23～25復興教育支援事業
(文部科学省指定)
＜大曲中＞
・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、
若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練
＜H25 平和中、H26 大曲西中＞
- ④市総合防災訓練への参加
＜H23中仙地域、H24南外地域、H25協和地域＞

～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導
計画」等の整備
・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所対応マニュアル」の提供
・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
・携帯電話等による電子メール配信システム整備

【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★西部学校給食センターの防災対応の機能を生かした訓練
- ★小・中学校の備蓄品の充実

(表紙写真:上から太田3小、大曲中、中仙中、平和中、西仙北中、太田中)

【今後の方向性】平成27年度の計画

～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

- ・大曲中⇔大船渡市立赤崎中
- ・平和中⇔大槌町(仮設住宅)
- ・太田中⇔大槌町立大槌中
- ・中仙小・中・清水小⇔気仙沼市
(仮設住宅、小原木小)
- ・南外小・中⇔南三陸町志津川小・中
- ・太田3小⇔仙台市若林区等

～ II・国や市の事業 ～

- ①市総合防災訓練 6月19日(金)
<太田地域>

②だいせん防災教育 「生き抜く力育成」事業

～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

実施予定日	平成27年8月29日(土)
実施場所	大仙市立西仙北中学校 校舎
参加者	西仙北中学校全校生徒(168名)及び教職員(20名) 地域自主防災組織代表住民(30名程度) 市内10中学校生徒代表(20名)及び教職員(10名) 市内小学校児童希望者(10名程度) 消防署等の関係機関
主催	大仙市教育委員会教育指導課及び総合防災課 *総参加者数の見込み250名

～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤避難者への食事の提供

- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・西部学校給食センターが備える防災機能を生かした取組を実践する
- ・地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる
- ・モデル校の実践に中学生サミットメンバー、小学生の希望児童及び市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る

事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付けた児童生徒の育成に “つなげる”
西仙北地域の防災モデル実践の成果を市内全域に “広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ



被災地交流の概要 ～中学校～

<大曲中学校>

★ 泊を伴う活動

期 日	交流の場所	参加者	交流先参加者
6月10日(水) (学区内小学校と合同)	岩手県大船渡市 赤崎中学校 後ノ入地区仮設住宅 大立地区仮設住宅	生徒会執行部等 13名 学区内小学生 7名 職員(小・中) 11名 計31名	赤崎中学校生徒会執行部 3名 仮設住宅住民 20名
7月23日(木)	岩手県大船渡市 後ノ入地区仮設住宅 大立地区仮設住宅	生徒会執行部、合唱部、 生活科学部等 23名 職員 9名 計32名	仮設住宅住民 26名

<平和中学校>

期 日	交流の場所	参加者	交流先参加者
9月3日(木) ～4日(金)★	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区 吉里吉里中学校 ほか	全校生徒 115名 職員 15名 保護者等 12名 計142名	グラウンドゴルフ大会 69名 ほか多数
10月10日(土) ～11日(日)	大仙市立平和中学校 (本校学校祭への招待)	平和中学校全校生徒	生徒会執行部を中心に 15名程度

<南外中学校>

期 日	交流の場所	参加者	交流先参加者
7月23日(木) (南外小と合同)	宮城県南三陸町 志津川小学校 志津川中学校 志津川中学校前仮設住宅	生徒会執行部、職員 保護者、地域住民 19名 学区内小学生 24名	志津川小・中職員 仮設住宅住民等 16名
10月22日(木)	宮城県南三陸町 志津川中学校前仮設住宅 サンサン商店街	3年生全員、職員、南外 地域の方 36名	仮設住宅住民 10名 南三陸町民 10名
10月23日(金)	宮城県南三陸町 志津川小学校 志津川中学校 志津川中学校前仮設住宅	全校生徒、職員、南外中 保護者、南外地域の方 120名	志津川小学校児童会 志津川中学校生徒会 10名 仮設住宅住民 130名



<中仙中学校>

期 日	交流の場所	参加者	交流先参加者
7月13日(月) (中仙小、清水小と合同)	宮城県気仙沼市 小原木小中仮設住宅、小泉 中仮設住宅、大谷小中仮設 住宅、天ヶ沢仮設住宅	生徒会執行部等 7名 職員(小・中) 6名 学区内小学生 9名 計22名	仮設住宅住民 50名
9月3日(木) ～4日(金) ★	宮城県気仙沼市 旧小原木中学校体育館 小泉中仮設住宅、大谷小中 仮設住宅、天ヶ沢仮設住宅	3年生 45名 職員 6名 計51名	仮設住宅住民 77名

<太田中学校>

期 日	交流の場所	参加者	交流先参加者
6月2日(火) ～3日(水) ★	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌学園中学部 吉里吉里地区仮設住宅 和野地区仮設住宅	1年生全員、職員 65名	大槌学園生徒 80名
8月11日(火)	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌町仮設団地	ボランティア隊(中学生 93名、職員9名、ほか に小学生、高校生、地域 住民等) 計128名	団地地域住民 約80名
9月1日(火) ～2日(水) ★	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌学園中学部	2年生 52名 職員 7名 計59名	大槌学園生徒 90名
10月3日(土) ～4日(日)	大仙市立太田中学校 (本校学校祭への招待)	太田中学校全校生徒	大槌学園生徒会執行部を 中心に15名程度
10月23日(金) ～24日(土) ★	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌学園中学部他	3年生全員、職員 63名	大槌学園中学部全校生徒 250名
12月5日(土) (予定)	岩手県上閉伊郡大槌町 第5仮設団地(和野) 吉里吉里仮設団地 (吉中グラウンド)	生徒会執行部、生徒有志、 職員 50名	団地地域住民 100名程度



平成27年度 赤崎に元気・笑顔をお届けよう

大仙市立大曲中学校

第1回赤崎中・赤崎地区支援交流活動 ～花で飾ろうプロジェクト～

平成27年6月10日(水)

- 7:30 大曲中学校出発
- 10:30 奇跡の一本松見学
- 11:30 赤崎中学校訪問
 - ・交流の打合せ
 - ・花苗の贈呈
 - ・学校見学
- 12:30 昼食
- 13:30～15:00 仮設住宅訪問
- 18:20 大曲中学校到着

第2回赤崎地区支援交流活動

～和みプロジェクト, 私やりますプロジェクト～

平成27年7月23日(木)

- 8:00 大曲中学校出発
- 11:15 元赤崎公民館長吉田さんの講話
- 12:15 昼食
- 13:00～13:45 大立地区仮設住宅での活動
- 14:00～14:45 後ノ入地区仮設住宅での活動
- 18:00 大曲中学校到着

◎花で飾ろうプロジェクト

《赤崎中学校への訪問》

今年度も赤崎中学校を訪問し、150株のペコニアを贈呈しました。また、全校生徒会の3役同士で今後の交流内容を話し合いました。



学校訪問のあいさつ。学区内3小学校の代表児童を含む、19名が参加しました。



赤崎中学校生徒会長へ花の贈呈



生徒会3役同士の話し合い。終始和やかな雰囲気で行われ、お互いの学校行事を紹介し合っていくことを確認しました。



現在もプレハブの仮設校舎の赤崎中学校。今回は校内を見学させていただきました。

《仮設住宅への訪問》

大立地区、後ノ入地区の仮設住宅を訪問し、プランターの花の植替えを住民と一緒にやりました。植え替えられたプランターは、仮設住宅や赤崎地区の沿道に置かれました。



大立地区では、植え替えたプランターを広場や各住宅に飾りました。



後ノ入地区では、植え替えたプランターを赤崎地区公民館前の沿道に並べました。



◎和みプロジェクト、私やりますプロジェクト

合唱部、生活科学部、学年生徒会の生徒が参加し、第1回目と同様に大立地区、後ノ入地区の仮設住宅を訪問しました。仮設住宅の住民への合唱演奏、お茶のお手前を披露しました。また、住宅周辺のゴミ拾いや雑草取りを行いました。



住民の方々との記念撮影。合唱やお茶のお手前の披露に、大変喜んでくださいました。



仮設住宅周辺のゴミ拾いや雑草取りは、1～3年生の学年生徒会執行部のメンバーで行いました。

平和中×大槌町吉里吉里地区
被災地交流活動 2015.09.03(1日目)



旧大槌町役場
献花の集い



避難所開設訓練を
見通した炊き出し訓練



アナウンス生徒
季花火部門



広報部門
チラシ配布



北日本花火興業さん
和火屋さん・保護者の皆さん



花火終了後、ライトの光でも交流



その光の多さに感激



平和中、神岡の思いが“笑顔の花”となり吉里吉里湾に咲く

3年明星学年・1年星桜学年
大槌町吉里吉里地区の皆さん

平和中×大槌町吉里吉里地区
被災地交流活動 2015.09.04(2日目)



2年奏学年 大船渡津波伝承館見学
三陸鉄道乗車・恋し浜ほたて焼き体験



「奇跡の列車」に乗車



笑顔と思いを届ける 南三陸町との交流 Ⅰ～Ⅲ

大仙市立南外中学校被災地交流事業

◆交流活動Ⅰ 南三陸町視察・研修(被災地の実際を学ぶ)

◇訪問地

南三陸町(現状視察), 志津川小・中学校, 志津川中学校前仮設集会所(震災についての研修)

◇視察・研修内容

- ①南三陸町を現状を見学する(防災センター, 防災庁舎等)
- ②震災の様子や避難所での生活を学ぶ

◇参加者 南外地域・保護者(11名), 南外小5・6年生(24名), 中学生(5名), 引率(8名)



小中学校の先生方から避難生活のお話を聞きました

◇視察から

- (南外中学生会長 鈴木竜也)
- ・土盛り, 高台移転等が目に見える形で進められており, 新たな町を一からつくり直しているという感じだった。
 - ・町一つを飲み込むほど震災の破壊力がすごいことが分かった。



仮設住民の方から震災当時のお話を聞きました

◇研修から

- (南外中学生会副会長 渡部睦乃)
- ・被災当時は住民が助け合い, 励まし合いながら避難生活を送った。
 - ・暖房や飲み水, 食料水の調達, 衛生面への注意などをみんなで助け合った。
- ※ともに明るい未来を築こうとする仲間としての「交流」を望みたい。

◆交流活動Ⅱ 物産交流(互いの地域よさを発見)

◇南外地域祭(10月18日)

…南三陸の方と南外中の3年生が南三陸の新鮮な海産物を販売しました。

◇サンサン商店街(10月22日)

…南外地域の方と南外中の3年生が地域の物産品を販売したり, 南外そばの会の試食会を手伝いました。

*参加者…各外地域の方(22名), 南外中3年生(16名), 教員(4名)

<南外地域祭での販売(10月18日)>

おたのしみ秋フェス 2015 南外!

宮城県 南三陸町海産物販売

平成27年10月18日(日)
午前10時から午後2時まで
※商品がなくなり次第終了となります。

会場: 南外支所前駐車場

なんのい地域祭のイベントの一つとして, 南三陸町仮設住宅自治会のみならず, 南三陸で産れたサンマ, ワカメ, ホタテ, 牡蠣などの新鮮な海の幸を交流している南外中学校の生徒と一緒に販売いたします。海産物の炭火焼きの販売も行いますので, たくさんのご来店をお待ちしております。

＜南三陸町で産る＞

さんま(1) 海産物振興委員会事務局

（南三陸町）

〒984-1807 大仙市南外中学校〒987-0001 南外中

電話: 099-26-2121 FAX: 099-26-2488

販売内容については, 販売日より変更になる場合がございますので, あらかじめご了承ください。



南三陸町の新鮮な海産物が飛ぶように売れました！この活動を通して南三陸のよさを実感しました！

〈さんさん商店街での販売(10月22日)〉



**南外の新米、野菜、山菜も
完売しました！
南外のおさも再び学びました！**

◇物産交流
南外地域祭での南三陸の物産販売，さんさん商店街での南外地域の物産販売，さらに南外そばの会の試食会を中学3年生が手伝うなどの活動を通して，それぞれの地域のよさを再発見する手がかりとなりました。

◆交流活動Ⅲ 3年目を迎えた炊き出し体験交流

- ◇志津川小学校へ……南外小の学習田でとれた新米30kgとメッセージを届けました。
- ◇志津川中学校へ…南中祭の収益金(義援金)とメッセージを届けました。
- ◇仮設住民の方へ…キリタンポ鍋，新米のおにぎり，そばの試食などを食べてもらい，南中ソーランなどを披露し心温まる交流が行われました。

*参加者…南外地域の方(35名)，南外中1～3年生(62名)，教員(18名)



笑顔があふれ、心と心の交流ができました！



中仙中学校 飛翼学年の被災地交流活動の報告

～宮城県気仙沼市を訪れて～

大仙市立中仙中学校

被災地交流のためのPR活動

7月13日(月)に清水小, 中仙小, 中仙中の代表児童・生徒16名, 教職員6名, 計22名で気仙沼市を訪問した。このうち, 本校は生徒会執行部7名と校長, 生徒会担当の加藤, 物部そして学年主任の小松の11名で参加した。小学生は小原木小・中学校仮設住宅を, 中学生は小泉中学校仮設住宅, 大谷小・中学校仮設住宅, 天ヶ沢仮設住宅を訪問し, 9月3日・4日に予定されている3年生の訪問についてのPRポスターと各小学校で制作したカレンダーやうちわを住民の方々に直接手渡した。仮設住宅の方々から「9月を楽しみにしているよ」「必ず行くからね」と温かい声をかけていただきうれしく感じた。住民の方々の表情は昨年度より明るかったが, 多いところでは3分の1ほどの仮設住宅が空き家になっていた。復興住宅への転居や仮設住宅の集約が進んでいることを実感した。



小学生が制作したうちわとカレンダーを受け取り, それぞれ担当の仮設住宅に向かった。



元氣なあいさつと明るい笑顔を届けるために仮設住宅を300軒ほど訪問し, PR活動をした。

元気を届けるために・・・被災地復興応援訪問

9月3日(木)と4日(金)の2日間, 本校3年生45名, 校長, 3年部職員5名の計51名で気仙沼市を訪問した。1日目, 朝7時に学校を出発し, 10時30分シャークミュージアムに到着, 震災直後の気仙沼市の様子を映像や写真で見て, 改めて地震や津波の恐ろしさを実感した。その後, リアス・アーク美術館を訪問し, 実際の被災物や写真を見た。テレビ・炊飯器などの電化製品からダンスや学習机などの家具類, 中には津波に押しつぶされた軽トラックなども展示されていた。午後から, 旧小原木中学校体育館を会場に, 校庭に建てられた仮設住宅の方々20名をお招きして, ドンパン節・ロックドンパン・ヤートセ・吹奏楽部によるアンサンブル・抹茶のお手前を披露し, また仮設住宅のみなさんとちぎり絵の制作を楽しみながら親睦を深めることができた。夜は「震災と復興」というテーマで, NGOシャンティー国際ボランティア会の方々から講話をしていただき, 震災当時の映像を交えながら復興の現状と復興が進む上での課題等について学んだ。



シャークミュージアムを見学



仮設住宅のみなさんと踊るドンパン節



ちぎり絵制作で会話が弾む！



秋田おばこは1番人気でした



吹奏楽部によるアンサンブル演奏



震災と復興について考える講話

2日目、3班に分かれて、大谷小・中学校仮設住宅（住民20名参加）、天ヶ沢仮設住宅（住民15名参加）、小泉中学校仮設住宅（住民20名参加）をそれぞれ訪問して、ドンパン節・ロックドンパン・吹奏楽部によるアンサンブル・抹茶のお手前を披露し、また一緒にちぎり絵を制作することで仮設住宅のみなさんとの会話が弾み、親睦を深めることができた。生徒たちは、仮設住宅の方々から直接震災当時の話を聞いたことで、新聞やテレビでは感じられない多くのことを学んだ。



完成したちぎり絵を囲み記念写真



生徒も仮設住宅の方々もいい笑顔



ありがとうのメッセージボード！

仮設住宅を訪問後、地域住民の総意で建築したという前浜コミュニティーセンターに集合し、シャンティ国際ボランティア会の方々や地域住民の方々と一緒に活動のふり返りをした。復興の現状を知り、今回の交流活動の意義やこれから自分たちができることについて考えを深めることができた。昼食・休憩後、コミュニティーセンターを出発。午後5時30分頃帰校した。あっという間の2日間であったが、生徒一人一人の心の成長を感じられた交流活動であった。



前浜地区のみなさんから震災当時の話を聞き、今自分にできることは何かを真剣に考えた。



太田中学校生徒会からの報告

発行：平成27年10月26日（月） 大仙市立太田中学校生徒会

平成27年度の太田中学校の被災地交流活動を紹介します

～岩手県大槌町立大槌学園中学部、大槌町仮設団地の方々との交流から～

今年度の交流活動について

6月3日(水)～6月4日(木) 1年生全員 「東日本大震災被災地を知ること」

1日目、旧大槌町役場庁舎を訪問し、学年全員で黙祷を捧げました。また、仮設住宅を訪問し、8月に行う「ふれあいミニコンサート」のちらし配りをしました。

2日目は、三陸鉄道に乗車し「震災学習」をしました。大船渡市の津波伝承館も訪れ、震災当時の様子を知ることができました。



7月9日(木) PTA親子講演会

「震災を通して学んだこと」

八幡平市立安代中学校長（元大槌中学校長）
小野 永喜 氏

東日本大震災が起こった当時の大槌中学校の校長 小野永喜先生より、貴重な講演をいただきました。実際の映像と講演内容からその瞬間の様子を詳しく知ることができました。

今後、もし同じようなことが発生したら、どのように対応すべきかなど貴重な意見をいただくことができた機会でした。



8月11日(火) 執行部、生徒有志、高校生

小・中学校保護者、町内小学校児童有志

全校生徒が制作した「手作りうちわ」を届け

ふれあいミニコンサートを開催しよう

岩手県大槌町の吉里吉里地区と和野地区の約300軒の仮設住宅に太田中全校生徒が制作したうちわを届けました。

さらに小中学生合同バンドを編成し、ふれあいミニコンサートを開催しました。今回は演奏曲リストの中から住民の方々に選曲していただきました。住民の方のリクエストをいただき、共に楽しみながら盛り上がることができました。



9月1日(火)~2日(水)

2年生全員

「大槌に色彩を届けよう Part5」

今年度も250個のプランターに赤・白・ピンクのベゴニアを植え、全校生徒で大切に育てました。そして地域の方々の協力を得て、2年生全員が大槌学園仮設校舎に届けました。

翌日は防災センターを訪れ、地震体験や煙体験などを通して防災についてより深く知ることができました。



10月11日(日) 太田中「学校祭」

大槌学園生徒会執行部 15名を招待

5年目となる大槌学園生徒会執行部の招待は15名の方に来校いただきました。当日のオープニングセレモニーでは大槌学園生徒による「語り部プロジェクト」の発表がありました。

また、「太田のお米を届けよう!」という企画から、贈呈式も行われました。太中祭を楽しんでいただき、互いの文化交流もできました。



10月23日(金)~24日(土)

3年生全員

大槌学園文化祭PRと文化祭参加

大槌町ショッピングセンターマストにて大槌学園文化祭PR活動を行いました。また、陸前高田市を訪問し、震災当時のお話を伺いました。翌日は大槌学園文化祭に参加し、今年度制作した「太中YOSAKOI」を披露しました。また、大槌学園へ約800kgの米を贈呈し、全校生徒のみなさんにお渡ししました。



今後の交流活動の予定

12月5日(土)

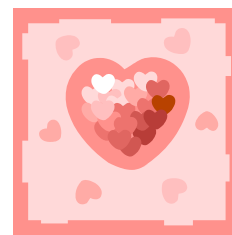
**執行部、生徒有志、太田地域のみなさんと共に
手作りのクリスマスカード&おやきを届けよう**

3月20日(日)

**全校生徒から地域の皆様へ協力御礼を伝える
被災地交流展(太田文化プラザ)**

太田中学校HPアドレス ot-otatyu@edu.city.daisen.akita.jp で詳しくご覧ください。

被災地交流の概要 ～小学校～



<中仙小学校> 中仙中と合同

期 日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
7月13日(月)	宮城県気仙沼市 小原木小学校 小原木小中地区仮設住宅	児童会代表 5名 職員 1名 計6名	小原木小児童 14名 職員 3名 仮設住宅住民

<清水小学校> 中仙中と合同

期 日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
7月13日(月)	宮城県気仙沼市 小原木小学校 小原木小中地区仮設住宅	児童会代表 4名 職員 1名 計5名	小原木小児童 14名 職員 3名 仮設住宅住民

<豊岡小学校>

期 日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
11月下旬	豊岡小学校学校田 ※豊岡小産の米を育てて 交流先に郵送する。	全校児童	岩手県陸前高田市 気仙小学校児童職員 約100名





<南外小学校> 南外中と合同

期 日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
7月23日(木)	宮城県南三陸町 志津川小学校 志津川中学校 志津川中学校前仮設住宅	児童 24名 職員 4名 保護者 2名 計30名	志津川小・中職員 仮設住宅住民等 11名

<太田3小学校(南・東・北)>

期 日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
6月9日(火) 合同修学旅行の初日	仙台市若林区荒浜地区 ※現地の方から震災のお話を聞き、津波で流された跡地に太田の花を植える活動を行う。	太田南小 24名 太田東小 18名 太田北小 10名 合計52名 (児童と職員の合計)	荒浜地区住民、NPO職員等 8名



被災地との交流活動

大仙市立中仙小学校

期日と訪問先

- 期日 平成27年7月13日(月)
- 訪問先 宮城県気仙沼市
 - ・気仙沼港(まちの様子や魚市場を見る)
 - ・仮設住宅(全校児童で作ったカレンダーを贈る)
 - ・小原木小学校(交流会の中で震災の様子を聞く)

中仙中学校生徒会の活動に合わせて清水小学校児童会と合同で実施しました。

気仙沼の「いま」



復興の工事があちらこちらで行われていることに気づきました。気仙沼はいきいきとしていて明るい、海のまちであると思いました。(児童の感想より)



海沿いの土地を高くする工事がさかんでした。



市場はマグロの水揚げで大忙しでした。

仮設住宅を訪問

円内が本校児童会メンバー

全校児童で作ったカレンダーを仮設住宅1軒ずつに贈りました。仮設住宅のみなさんは私たちの訪問を楽しみに待っていてくれました。



「カレンダーありがとう」「秋田から来てくれたの」「遠い所からありがとう」と喜ばれたことがうれしかった。(児童の感想より)

小原木小での交流会

■ 学校紹介と自己紹介



小原木小のみんなは、震災でつらい思いをしたのに元気だと思いました。
(児童の感想より)

■ 楽しいゲームでなかよく交流



■ 震災のこと・復興に向けた活動を聞く



小原木小児童は「交流ができてうれしい」「秋には新しい家が建つ」と喜んでいました。



「大切な友達や場所を失った現実を乗り越え、気仙沼のためにがんばりたい」と語った小原木小児童に、胸を打たれました。

帰校後の報告会



気仙沼の復興に向けて力を合わせ、前向きで明るく元気な人々とふれあい、これからも交流していこうと全校によびかけました。



「清水小学校 被災地学校・仮設住宅訪問活動」

大仙市立清水小学校

◇期 日：平成27年7月13日（月）

◇訪問場所：宮城県気仙沼市唐桑町 小原木小学校 小学校隣接の仮設住宅

◇参加児童：6年生児童会運営委員 4名（中仙小学校児童5名と同行）



【気仙沼港】

- ・このような大きな船も震災時は、木の葉のように陸上に打ち上げられたりした。



【魚市場】

- ・今は、だいぶ活気づいた様子が見えた。



【シャークミュージアムで津波の映像を視聴】

- ・生々しい映像は、目を覆いたくなるような場面もあった。



【津波の映像視聴後の感想を記載】

- ・一人一人が、映像を見て改めて考えさせられたことを真剣な姿でメモした。



【仮設住宅訪問①】

- ・本校で作成した「メッセージ入りのうちわ」を渡しながら訪問した。



【仮設住宅訪問②】

- ・実際に津波から逃げ、高台から自宅を流されるのを見た人の話を聞いた。



【小原木小交流会・小原木小自校紹介】

- ・ 5. 6年生が、ダンスに合わせて自校紹介をして歓迎してくれた。



【小原木小交流会・清水小自校紹介】

- ・ 清水小の主な活動を写真を見せながら紹介した。



【ゲーム①】

- ・ 小原木小の児童主導でグループづくりのゲームを楽しんだ。



【ゲーム②】

- ・ 勝敗を付けるゲームはかなり白熱した。



【グループでの話合い①】

- ・ 被災した児童の生の声を聞くことにより、より現実的に防災について考えることができた。



【グループでの話合い②】

- ・ 被災当時のことを思いだし、涙しながら話をしてくれる子どももいた。

気仙小学校を応援しよう

大仙市立豊岡小学校

「今年もおいしいお米を送るぞ」 ◆全校田植え：平成 27 年 5 月 27 日（水）



地域の人たちの協力で
「うまさピカイチ 岡小田んぼ」に田植え

「型つけ」は、5年生の担当



たくさんのお米が送れるといいね

「いっぱい送れそうだぞ！」 ◆全校稲刈り：平成 27 年 9 月 24 日（木）



全校みんなの力をひとつにできました



田んぼを見守る案山子（5年生作）



低学年が「ハサ」まで運びます



とれたお米は、天日で干しています。

「今年も贈るぞ 200kg」

◆お米を贈ろう：平成27年12月中旬予定

- ★ とれたお米を2kgずつ小分けにして100袋を、陸前高田市立気仙小学校に贈ります。今年は、200kgです。
- ★ 小分け作業は、5年生・6年生が担当します。
- ★ メッセージは、全校児童一人一人が書き入れます。
- ★ 最後にみんなの思いを添えます。



気仙小のみんなから毎年メッセージが届きます。

南三陸町視察の記録

大仙市立南外小学校

◇ 中学校との合同で実施する被災地訪問も今年で3年目を迎えました。小学校関係では、初年度が児童会を中心に訪問し、2年目からは6年生児童が全員で訪問しています。(保護者、5年生以下の児童は希望)

今年度の交流の1回目(7月23日)は、南外中学校の生徒会と本校の6年生児童による訪問でした。交流の2回目(10月23日)は、南外中学校全校生徒による訪問で、本校では実習田で取れたお米を南外中学校に託してお届けするという活動になっています。

ここでは、交流の1回目の活動について紹介します。

1 ねらい

- (1) 小・中学校の訪問や地域住民との交流等を通して、他を思いやる心や態度を醸成し、ふるさとを見つめ直す機会にし、ふるさとを愛する心を高める。
- (2) 東日本大震災で被災した南三陸町を訪れ、その状況を直接体感させることにより、自然災害の恐ろしさを学ばせ、災害から命を守るための防災意識を高める。

2 実施日

平成27年7月23日(木)

3 視察先

- (1) 宮城県本吉郡南三陸町
*南三陸ポータルセンター(さんさん商店街隣) *防災庁舎
- (2) 宮城県本吉郡南三陸町立志津川小学校
・住所 〒986-0753 宮城県本吉郡南三陸町志津川字城場41番地
・TEL (0226)46-3645 ・FAX (0226)46-5743
- (3) 宮城県本吉郡南三陸町立志津川中学校
・住所 〒986-0754 宮城県本吉郡南三陸町志津川字助作1-1
・TEL (0226)46-3666 ・FAX (0226)46-3650
- (4) 志津川中学校仮設住宅



・防災庁舎前で説明を聞く子どもたち。



・慰霊碑に手を合わせる。写真は本校PTA会長の田口眞山氏。



・復旧工事（盛土して造成）が進められているが
まだまだ、時間がかかりそう。



・市津川小学校で、震災時の様子を聞く
子どもたち。



・さんさん商店街の様子。



・さんさん商店街で昼食をとる子どもたち。



・高台からみた南三陸町の様子。



・仮設住宅の皆さんから、説明を聞く子ども
たち。

何でも前向き ～心を一つに～

太田地域連合修学旅行団被災地交流プロジェクト

大仙市立太田南小学校・太田北小学校・太田東小学校

- ◎太田地域では、3小学校合同修学旅行において、一昨年度から被災地に花を植える交流活動を行っている。今年度も、5月28日(木)3校合同で事前学習を行い、交流プロジェクトのキャッチコピーや花壇のデザインを考えた。
- ◎6月9日(火)修学旅行1日目。仙台市荒浜地区で仙台市ボランティアセンターや地権者と一緒に花苗植栽の交流活動を行った。
- ◎3小学校は、この交流活動により子どもたちに被災地の現状を実感させ、太田中学校進学後の本格的な岩手県大槌町支援活動に結びつけていく。



現地の花壇に立てた看板



3校合同事前学習会

プロジェクトの流れ

事前交流会での合同学習

花壇デザインの募集

キャッチコピーの募集



修学旅行での花植え交流活動



太田中学校と連携した活動

- ・太田子ども会議(児童会・生徒会代表者の合同会議)で被災地交流計画を協議
- ・アルミ缶回収の継続
- ・メッセージうちわの作成
- ・夏季休業中の大槌町訪問へ小学生や保護者の希望者やマーチングバンドが参加
- ・まごころ米の贈呈

事前学習会を終えて

太田北小学校 高橋歩夢

ぼくは、早くもとの荒浜に戻ってほしいと思います。そのために、一つ一ついねいに植えたいです。荒浜には、まだ見つかっていない人がたくさんいます。早く見つかってほしいです。そして、一人でも多く今年笑顔になってほしいです。デザインとキャッチコピーは、すばらしくて、みんなが笑顔と元気になってくれると思います。

太田北小学校 渡邊凜乃

私は荒浜に花をたくさん植えて、東日本大震災で被害にあった方々に、少しでも笑顔になってほしいと思います。震災が起きてからの心の中の苦しみや恐怖を和らげてあげられたらいいと思います。そんな思いをこめて荒浜に花を植えます。

活動の様子や振り返り



サポート隊による看板設置



ベゴニア511株を植える



太田東小学校 小松 楓馬

仙台市若林区の荒浜地区で花植え活動をしました。東日本大震災では、家がたくさん並んでいた場所に津波がきて、全て流されてしまったそうです。写真でその様子を見た時、言葉に表せないくらいの衝撃を受けました。荒浜地区の一部は災害危険区域で、住むことができない所もあるようですが、復興を目指して頑張っていることを知りました。現地の人々の「命さえあれば」という言葉がとても心に残っています。



太田東小学校 藤原 陽

荒浜地区には建物がほとんどなく、びっくりしました。何もかもなくなってしまった人たちが元気になればいいなど思いながら花を植えました。花は、塩害で枯れてしまうこともあるそうですが、力強くたくましく生きてほしいと思いました。

私がこの活動を通して学んだことは津波のこわさです。津波は建物や生き物や人を被害にあわせるすごくこわいものだと分かりました。

太田南小学校 大畑 亘平

修学旅行でがんばったことは、荒浜での花植えです。心を込めて花植えをすることができました。その後、津波が来た時の写真を見て、津波が来る前は建物がたくさんあったけど、津波の後は、建物が無くなっていて杉の木も倒れていました。早く津波が来る前のようになってほしいと思いました。

太田南小学校 小松 結子

被災地での花植えは、1本1本でいねいに気持ちをこめて植えることができました。5年生の時にいった陸前高田と比べてみても、復興はしていたけれどまだまだでした。被災地はどこも荒れはてていました。被災地の皆さんを元気にしてあげたいという気持ちをもって活動することができました。



3.11当日の様子の写真を見る



地権者の庄司さんの話を聞く

避難所開設訓練の概要



<西仙北中学校>

★宿泊を伴うもの

期 日	主な活動	訓練参加者												
8月29日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト ・避難訓練 ・中学生による避難所開設 ・避難住民の受入 ・給食センターの機能を生かした食事の提供 ・救命対応訓練 ・支所及び自主防災組織への引き継ぎ 	<table> <tr> <td>全校生徒及び職員</td> <td>188名</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>114名</td> </tr> <tr> <td>中学生サミット関係</td> <td>46名</td> </tr> <tr> <td>関係機関</td> <td>41名</td> </tr> <tr> <td>市教育委員会</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計397名</td> </tr> </table>	全校生徒及び職員	188名	地域住民	114名	中学生サミット関係	46名	関係機関	41名	市教育委員会	8名	合計397名	
全校生徒及び職員	188名													
地域住民	114名													
中学生サミット関係	46名													
関係機関	41名													
市教育委員会	8名													
合計397名														

<平和中学校>

期 日	主な活動	訓練参加者								
9月17日(木) ～18日(金)★	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト ・避難訓練 ・中学生による避難所開設 ・避難住民の受入 ・炊き出しの提供 	<table> <tr> <td>全校生徒及び職員</td> <td>133名</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td>地生研リーダー研修会</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計193名</td> </tr> </table>	全校生徒及び職員	133名	地域住民	20名	地生研リーダー研修会	40名	合計193名	
全校生徒及び職員	133名									
地域住民	20名									
地生研リーダー研修会	40名									
合計193名										

<大曲中学校>

期 日	主な活動	訓練参加者										
10月29日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト ・避難訓練 ・煙道体験 ・水害避難訓練 ・中学生による避難所開設 ・避難住民の受入 	<table> <tr> <td>全校生徒及び職員</td> <td>787名</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>26名</td> </tr> <tr> <td>P T A 会 員</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>自衛隊員</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">等 合計850名</td> </tr> </table>	全校生徒及び職員	787名	地域住民	26名	P T A 会 員	10名	自衛隊員	6名	等 合計850名	
全校生徒及び職員	787名											
地域住民	26名											
P T A 会 員	10名											
自衛隊員	6名											
等 合計850名												





平和中



西仙北中



西仙北中



平和中



西仙北中



大曲中



大曲中



【本校の屋内避難所指定（浸水時：体育館 震災時：体育館）
 【本校の屋外避難所指定（浸水時：指定なし 震災時：グラウンド）】

避難地域
 高屋敷・上町・一区町

自助
 落ちてこない
 倒れてこない
 移動してこない
 場所に

初期対応 「緊急地震速報」

災害発生（避難開始）

大仙市 災害対策本部
 <大仙市総合防災課内>
 TEL 0187-63-1111（内線 285）

避難所開設要請

<施設管理者>

大仙市 教育委員会
 TEL (63-1111 内線 335, 346)
 FAX (63-7131 兼停電時緊急電話)
 担当者（教育指導課長）

<管理運営責任者>

大仙市 対策本部 防災班
 TEL (0187-63-1111 内線 285)
 担当者（総合防災課長）

大仙市立西仙北中学校
 TEL (0187-75-1108)
 FAX 停電時緊急電話 (0187-75-2735)
 校長 小笠原 晃
 自宅 (XXXX-XX-XXXX)
 携帯 (XXX-XXXX-XXXX)

学校解錠者
 木村 百合子 自宅 (XX-XXXX)
 携帯 (XXX-XXXX-XXXX)
 教職員不在時の解錠者
 契約警備会社 警備保障セコム
 TEL (0187-63-7600)

学校避難所
 対策本部設置準備

二次対応

西仙北中学校 避難所対策本部設置

責任者：市対策本部民生部救護班<社会福祉課等> 防災班<総合防災課>
 校長 小笠原 晃 …… 施設管理面
 場所：大仙市立西仙北中学校 校長室
 構成員：大仙市担当者 5名（市対策本部より） 学校管理者（校長 小笠原 晃）
 地域住民代表者（高屋敷・上町・一区町） PTA代表（会長 後藤 康文）

教育委員会に現状報告

- ・施設の安全確認
 - ・生徒、教員の安否確認
 - ・非常参集体制
 - ・避難者来校状況
- 担当者（教頭）

*** 事前に地域住民代表者との連携が必要**

避難所施設安全確認及び安全確保

使用施設の被災状況調査

避難所開設可・不可の判断

第1避難場所
 地震 <体育館>
 水害 <体育館>
 避難者駐車場
 <体育館周辺>
 避難者対応職員
 ・杉山 剛

**他の職員は
 生徒対応 最優先**

- ・安否確認メール
- ・「引き渡し」カード

【初期安全点検の項目】

- 構造部等の状況 <参考～内閣府「建築物の応急危険度判定調査表」>
 - ・隣接建築物や周辺地盤の破壊状況
 - ・基礎や構造全体の傾斜
 - ・柱などの部材の破断
 - 非構造部材の状況 <参考～文部科学省「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック」>
 - ・天井・内装材・照明器具・窓ガラス・外壁・設備機器
 - ライフラインの状況
 - ・ガス漏れ
 - ・水道, トイレ
 - ・電気
 - ・電話
- *判断困難な箇所については、専門家の診断を依頼する。
 連絡先 大仙市災害対策本部（応急危険度判定士による点検）

→ 避難者受入開始

施設開放区域の明示
 ・立ち入り禁止箇所や危険箇所への
 対処（施錠・ロープ等）

・ガラスの破片等の危険物の除去
 ・修理可能箇所の修理等

避 難 所 開 設

用途別開放施設明示

受付（体育館入口付近）
 対策本部（校長室）
 第1次避難所（体育館）
 第2次避難所（音楽室）
 ＊第2次避難所は主に負傷者
 救護室（保健室）
 更衣室（体育館更衣室）
 トイレ（体育館・職員トイレ）

避難所運営のための施設確保

緊急車両等乗り入れ場所（体育館入口）
 ヘリポート（陸上競技場）
 救急物資保管場所（体育館ステージ）
 食料等配給場所（体育館ステージ前）
 仮設テント設置場所（陸上競技場）
 炊き出し場所（体育館横）
 仮設トイレ設置場所（体育館駐車場付近）
 ゴミ集積場（テニスコート横）

＊事前に避難所マップや諸表示等を準備

学校職員避難所対応役割分担

収容人数 613人 避難施設面積 1,239㎡
 ＊「大仙市地域防災計画」避難所一覧より

- 【施設・安全班】
 使用箇所の明示
 住居スペースの確保
- 【総務班】
 被災者受け入れ
 問い合わせ対応
 自治組織結成支援
 ボランティア受け入れ
- 【連絡調整班】
 情報連絡活動（パソコン）
- 【物資班】
 毛布等の配給
 衣料・生活物資受け入れ
 炊き出し準備
- 【給食班】
 食料及び飲料水の確保
 炊き出しの準備
- 【救護班】
 負傷者への応急処置
 医療機関との連携
- 【衛生班】
 トイレ・ゴミ等の衛生管理

担当者 ○杉山大、岩谷、佐正

・安全点検と応急復旧 ・各種表示
 ・パーテーションの設置

担当者 ○教頭、藤澤、杉山剛、佐慎

・受付の避難者名簿の作成と管理
 ・避難状況の掌握（避難者数・健康状態等）
 ・自治組織結成に向けた準備
 ・ボランティア人数掌握、活動計画

担当者 ○高田、佐々木喜、鈴木

・被害状況の把握と避難者への情報伝達（情報の複線化）
 ・避難者用緊急電話の設置依頼
 ・外国人のための案内看板設置

担当者 ○大畑、田中

・避難所対策本部の責任者を通じて災害対策本部に請求
 ＊本校の物資備蓄倉庫 <西仙北本部 詰め所>

担当者 ○藤澤一、齋藤、増田、（奥田）

・食中毒等衛生面の配慮
 ・避難者への配給計画

担当者 ○佐藤、佐喜、後松

・応急セット（保健室） 救急車 Tel119
 ・仙北組合総合病院 Tel（63-2111）

担当者 ○井合、佐薫

・仮設トイレ設置までのトイレ管理
 ・ゴミ集積場の決定・管理・ゴミの捨て方等の指示
 ・伝染病、食中毒等衛生面の配慮

避難所開設以降

… 市担当者を責任者として自治組織中心に避難所が運営される

自治組織の設立

避難所運営委員会

リーダー 町内会長 _____ 氏
(高屋敷・上町・一区町内会長の代表1名)

- ・避難所運営に派遣された市職員
- ・学校代表者
- ・避難者による自治組織の代表者
- ・ボランティア組織の代表者

事前に話し合っておきたい
 *業務内容の割り振り (町内会等の自治組織や地域自主防災組織で)
 *避難所における生活ルール決定 (清掃・点灯・消灯・ゴミ処理 他)

自治組織(自主防災組織)の分担

【 施設・安全 】 避難所の施設管理・安全管理	リーダー <_____> 担当者 杉大
--------------------------------	------------------------

- ①危険箇所や立ち入り箇所の明示
- ②住居スペースの確保

【 総務班 】 避難者生活秩序の管理	リーダー <_____> 担当者 教頭
---------------------------	------------------------

- ①生活ルールの作成と周知徹底 (飲酒・喫煙・点消灯・所持品管理・ゴミ処理)
- ②避難者間でのトラブルの対応、避難者の心のケア (相談業務等)
- ③ボランティア活動の拠点設置 (場所:)
- ④ボランティアコーディネーター等、専門家の依頼 (要請先:)

【 連絡調整班 】 情報連絡活動	リーダー <_____> 担当者 高田
-------------------------	------------------------

- ①避難者用緊急電話の設置・管理
(請求先: _____)
- ②情報収集及び公報 (掲示板等の利用)

【 物資班 】 生活物資等に関する業務	リーダー <_____> 担当者 大畑
----------------------------	------------------------

- ①必要物の内容及び数の掌握
- ②必要物の請求 市対策本部が備蓄倉庫から運搬
- ③物資の仕分け (場所: 体育館ステージ)
- ④物資等の配給 (場所: 体育館ステージ前)
- ⑤衛生面の配慮

本避難所最寄りの備蓄倉庫 (西仙北本部分団詰め所)

【 給食班 】 食料・飲料水に関する業務	リーダー <_____> 担当者 藤一
-----------------------------	------------------------

- ①必要物の内容及び数の掌握
- ②必要物の請求先 … 市対策本部が備蓄倉庫から運搬
- ③地域からの食材等の調達 … 連絡調整班への支援要請
- ④災害対策本部の要請による炊き出し…調理室・給食室等の利用及び献立・調理の支援
- ⑤ボランティアによる炊き出し … 責任者の判断で場所や器具提供等の協力

<p>【 救護班 】 負傷者・病人への対応</p>	<p>リーダー <_____> 担当者 佐藤</p>
<p>①応急処置 (応急セットは保健室に セット分常備) ②救急車要請、医療機関への搬送 ・救急車 Tel 119 ・仙北組合病院 Tel 63-2111</p>	
<p>【 介護班 】 災害弱者への対応</p>	<p>リーダー <_____> 担当者 後松</p>
<p>①災害弱者の介護 ②ボランティア等に介護の要請 市社会福祉協議会 Tel 63-0277 福祉協議会西仙北支所 Tel 75-1145</p>	
<p>【 衛生班 】 衛生環境の整備、生活物資に関する業務</p>	<p>リーダー <_____> 担当者 井合</p>
<p>①仮設トイレ設置までのトイレの管理 ②仮設トイレ設置 請求先：_____、設置場所：_____ ③ゴミ集積場の決定・管理 ④伝染病・食中毒衛生面の配慮</p>	

だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業

避難所開設訓練 西仙北中学校

8月29日（土）、大仙市教育委員会指定「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」の中核となる、避難所開設訓練を、西仙北中学校体育館、校舎内並びにわくわくランチと連携で行った。

訓練想定は次のとおりである。

8月29日午前9時頃、西仙北大沢郷地域を震源とする直下型の強い地震が発生。刈和野地区で震度6を観測した。西仙北地域の家屋世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。避難所に指定されている西仙北中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。生徒たちは自分の安全を確保するとともに、大仙市の要望により、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。また、西部わくわくランチと連携・協力し、避難者に食事を提供することとした。

一日の流れ

- 9：05 地震発生，シェイクアウト→避難
- 9：30 被害状況及び校舎内の安全確認→大仙市からの避難所開設要請
- 9：50 避難所開設準備

パーティション作り，バス・避難者誘導，物資配布，ゴミ箱作り，電気照明，照明設置，簡易トイレ設置，案内表示作成設置，テント設営，炊き出し など



受付準備

手書きで名簿を作成。地区ごとに分かりやすく。



案内表示作成

避難者に分かりやすい案内表示を心がけた。



テント設営

雨天に備え，テントを設営。炊き出し準備。

- 10:50 避難所受入開始
11:30 食事提供, 配膳, 片付け



食事提供

地域の方々にカレーと飲料水を提供した。

- 12:55 消防隊員及び生徒による救命対応訓練



救命対応訓練

消防署への職場訪問や職場体験の経験を生かして。

- 13:30 人員確認, 健康観察
→避難所運営を西仙北支所及び自主防災組織に引き継ぐ。



避難者との交流

地域の方々と交流を深める。肩もみなどふれあいが親近感を生んだ。



定例会議

現在の状況確認と, 要望等を話し合った。



巡視・連絡

数人で巡視しながら, 必要なことを連絡した。

- 13:45 訓練への指導講評
14:00 地域市民を西仙北支所の対応バスで各地へ送る。

成果と課題

指導講評では, 生徒の優しさ溢れる避難所運営だったと褒めていただいた。生徒たちは自分たちができることを考え, 臨機応変に対応しようと汗を流す姿に感心した。また, 救急隊員や救急車を使った救命対応訓練も実施することができ, 緊張感をもって訓練ができた。課題としては避難者への配慮, 緊急時の伝達方法の工夫などをさらに考えていくことが必要である。また, 夜間や冬季への対応も検討していきたい。

今後もこのような活動を続け, 災害時の自助・共助・公助の考え方をもとに, 自分の命を守るとともに, 周りの困っている方に手を差し伸べることのできる優しくたくましい生徒になってもらいたい。本校にとっても生徒にも大変意義のある経験ができたことに感謝したい。

平成27年度 避難所開設宿泊訓練

大仙市立平和中学校

「自分たちのふるさとを自分たちの手で守る」

■期 日 平成27年9月17日(木)～18日(金)

■場 所 大仙市立平和中学校

■対 象 平和中学校生徒・教職員・地域住民・神岡小学校6年生・地生研各校代表生徒・地生研担当教諭

■内 容 本校では、次のような想定の下、右下の表の日程で訓練を実施した。

9月17日(木)午後3時00分頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、6校時の授業中に地震が起こった。そのため、生徒たちの身の安全確保のために平和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力することとなった。

■活動の様子



総務班（生徒会執行部）
被災者受け入れや名簿作成を行いました。また、各係との連絡調整も行い、避難所の本部的役割を担いました。

■17日(木)

- 15:00 地震発生、避難訓練
- 15:30 避難所開設準備
- 16:00 炊き出し開始
- 17:00 避難者受け入れ開始
- 18:00 食事配膳・夕食
- 22:00 就寝

■18日(金)

- 6:00 起床
- 6:30 朝食準備
- 7:00 朝食（非常食）
- 8:00 避難所終了の会・解散



施設・安全班（生活、体育）
住居スペースの確保のためのパーティションの設置や校舎内の施設の安全点検を行いました。



広報班（広報）
校舎内の使用施設の案内・表示や避難者への情報伝達を行いました。



物資班（購買，図書）
 物資の受け入れや運搬・数量確認・保管，避難者への配給を行いました。
 また，備蓄倉庫の管理等も行いました。



給食班（給食，学習，各班）

食料及び飲料水を確保し，炊き出しを行いました。また，各班と協力しながら避難者への食事の配給も行いました。

救護班（保健）

避難所内を巡回し，避難者の健康状態の確認・把握を行いました。
 ウエットタオルの配布や薬の服用の確認・健康体操の実施等も行いました。



保健衛生班（JRC，整美）

トイレ等の衛生管理や衛生物資の設置・配給を行いました。ゴミの分別ができるようゴミ箱を作成し，設置しました。
 避難者へのマッサージ等も実施しました。

平成27年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるような態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。



2 実施日時 平成27年10月29日(木)

3 実施場所

大曲中学校 校舎内及び校地内周辺

4 参加者

大曲中学校生徒(727名)
教職員(60名) PTA会員(10名)
若竹町住民(26名) 自衛隊員(6名)
大仙市消防本部 大仙市総合防災課
大仙市水道局

5 実施内容

- 訓練1 (地震避難…1・2・3年生・職員)
平成27年10月29日(木) 午前9時頃、緊急地震速報が発表され、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが70秒ほど続いたという想定である。非常放送で全校生徒に避難方法の指示があり、一斉に体育館に避難した。



- 訓練2 (初期消火活動…1年生・2年生・若竹町民)

火災発生後の初期消火活動として、水消器による消火活動を行った。

- 訓練3 (自衛隊による講演…1年生・2年生若竹町民)

自衛隊の災害派遣活動や実体験を聴き、防災に対する考えを深めた。



- 訓練4 (地震体験…2年生・若竹町民)

地震体験車に乗り、強い揺れを体験した。



○訓練5 (避難所開設…3年生・若竹町民)

「訓練1 (避難訓練：地震想定)」に引き続き、若竹町周辺地域の家屋が全壊または半壊し、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、さらに大曲中学校を避難所として開設するよう市長より指示がきたことを想定し、避難所開設を行った。



○訓練7 (炊き出し訓練…1～3年生

若竹町民)

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く応急給水に来たという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行った。



○訓練6 (心肺蘇生CPRとAED…3年生

若竹町民)

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けることは困難な状況になりやすい。傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるようにする。

6 訓練を終えて

今年は新たな活動として自衛隊の参加や地震体験を取り入れたことで、活動の幅が広がり充実した。地域住民や市防災課など関係機関と連携し、総勢850名で防災訓練を実施することができた。緊急時には地域等とのネットワークを大切にし、その機能十分に果たして、安全に行動できるようにしていきたい。

(表紙裏写真:上から大曲中、太田中、南外中、豊岡小、平和中)

